

21. 保健師活動

保健師は、個人、家庭、集団及び一定の地域を対象として、対象者のライフステージに応じた疾病の予防、早期発見、健康の保持増進、社会復帰への支援など地域住民が健康で安心した生活が維持できるよう生活全般に渡り支援を行なっている。

また、保健師の活動拠点としては、池袋保健所（健康推進課、長崎健康相談所、地域保健課公害保健G・保健事業G）の他、高齢者福祉課（認知症対策G・基幹型センターG・地域ケアG・介護予防G）、障害部門（精神障害者福祉G）、子育て部門（東部子ども家庭支援センター子どもの権利担当）がある。

[1] 保健所業務の内容

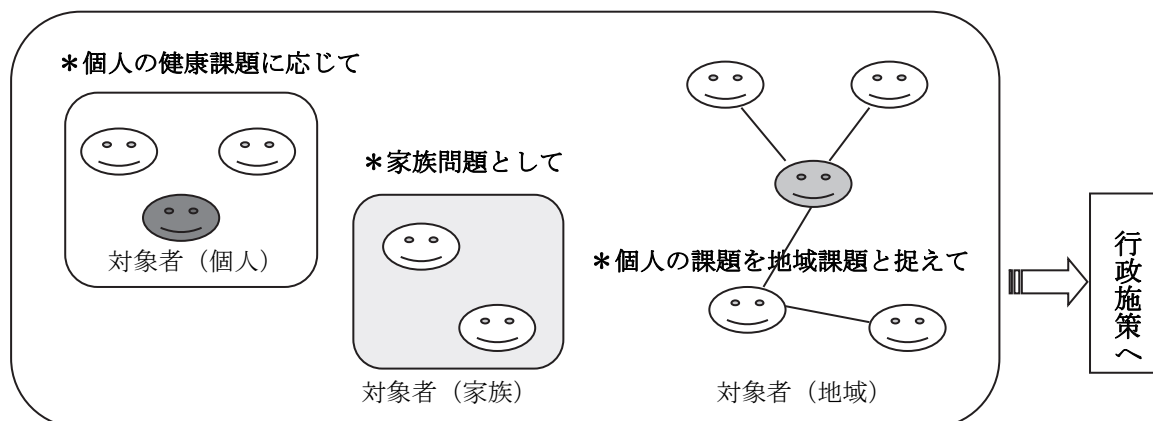
□保健師業務総単位数（保健指導係、感染症担当係長、精神保健担当係長）

区分 年度	地区 管理	保健 福祉 事業	コー デ イ ネ ー ト	教育 ・ 研修 ・ 事務 等	合 計 （ 単 位 ）
22年度	963.0	5,746.0	1,451.5	1,608.0	9,768.5
23年度	774.0	6,258.0	1,496.5	1,388.0	9,916.5
24年度	780.0	5,823.0	1,459.5	1,309.0	9,371.5
25年度	1,086.5	6,020.5	1,351.0	1,549.5	10,007.5
26年度	878.0	6,368.5	1,682.3	1,474.0	10,402.8
	池袋	716.5	4,619.0	1,374.5	7,973.0
	長崎	161.5	1,749.5	308.0	2,430.0

（注）保健師活動は、1日2単位として換算している。（1単位＝4時間）
総単位のうち、61.2%が保健福祉事業となっている。

(1) 地区管理

保健師は地区担当制（受け持ち地区）をとっており、地区の特性を踏まえた健康課題の解決に向けて情報収集・分析・対応・行政施策への反映等の役割を担っている。



(2) 保健福祉事業：対象者や課題に応じた解決手法にて対応している。

(内訳については別表1、主な事業一覧については別表2を参照。)

① 家庭訪問

保健活動のうち、最も重要な役割をなすものは家庭訪問である。地区担当保健師として区民の健康に関するさまざまな相談を受け、正しい療養のしかた、看護の方法などについて具体的に相談・指導を行なっている。(内訳については、別表3を参照。)

また、訪問にあたっては、主治医をはじめ関係機関と必要な連絡をとりながら訪問業務の万全を期している。

② 保健指導 (随時及び予約にて相談)

面接相談、電話相談、文書等による個別相談に応じている。

③ 健康相談

相談日を設定して実施する健康相談及び保健指導：出張育児相談、精神保健福祉相談、生活習慣病相談等。

④ グループワーク

健康課題を共有したり個人の問題解決へむけたグループ活動：精神保健、育児グループ・運動等のグループ活動等。

⑤ 健康診査

個人及び集団を対象とする健康診断にかかわる保健指導：乳幼児健康診査、生活習慣病予防健診、結核健康診断等。

⑥ 健康教育

健康知識の普及・意識の啓発のために行なう健康教育：母親学級、初心者運動教室、子育て講演会、精神保健福祉講演会、出前講座等。

⑦ 地区組織活動

民生委員、家族会、患者会、ボランティア活動関係者の育成、NPO等自主グループの支援活動。

⑧ その他

上記分類に該当しないもの。

(3) コーディネート

① 個別会議

ケース支援に関する保健・医療・福祉等の関係機関との連絡調整のための会議：個別事例検討会、サービス調整会議。

② 個別会議以外

ケース支援に関する保健・医療・福祉等の関係機関との連絡・調整。

③ 地域会議

地域ケア体制構築・維持のためのコーディネート等個人のレベルを越えた連絡調整会議。

④ 地域会議以外

(4) 教育・研修

① 研修企画

関係職員、看護学校等の講義等に関する資料作成等。

② 実習生指導

保健師等の学生に対する保健所実習の教育指導。

(5) 業務管理

保健活動の円滑な推進のために行なう業務。

(6) 連絡事務

業務に係る連絡や事務。

(7) 研修参加

業務遂行に必要な技能・知識を得るための研修参加。

[2] 東日本大震災被災地支援

平成23年3月11日発生した東日本大震災への支援活動として、被災地派遣を行なった。

- | | | | |
|---|-----------------|---------|---------|
| ① | 平成23年5月31日～6月7日 | 岩手県宮古市 | 保健師2名派遣 |
| ② | 平成23年9月7日～9月14日 | 宮城県気仙沼市 | 保健師2名派遣 |

□別表1 保健福祉事業（内訳）

年度	区分	家 庭 訪 問	保 健 指 導	健 康 相 談	グ ル ー プ ワ ー ク	健 康 診 査	健 康 教 育	地 域 組 織 活 動	そ の 他	合 計 （ 単 位 ）
22年度		1,056.0	2,406.0	503.5	123.5	825.0	630.5	149.5	52.0	5,746.0
23年度		1,046.5	2,746.5	495.5	169.5	1,075.0	534.0	155.0	36.0	6,258.0
24年度		1,154.5	2,554.5	404.5	142.0	933.0	465.0	152.5	17.0	5,823.0
25年度		1,048.5	2,647.0	440.5	161.0	1,059.5	487.0	127.0	50.0	6,020.5
26年度		968.5	2,459.0	587.5	147.5	1,240.5	676.5	104.0	185.0	6,368.5
	池袋	668.5	1,812.5	486.0	76.0	982.5	527.5	42.5	23.5	4,619.0
	長崎	300.0	646.5	101.5	71.5	258.0	149.0	61.5	161.5	1,749.5

（注）保健福祉事業（内訳）のうち、保健指導が38.6%、家庭訪問が15.2%となっている。

□別表2 主な保健福祉事業一覧

	健康診査・ 健康相談	健康教室・ グループワーク	地区活動 （家庭訪問・面接・電話）	地区組織活動・ 関係機関連携会議
母子 保健	◇ 乳児健診 ◇ 1歳6か月児健診 ◇ 3歳児健診 ◇ 乳幼児経過観察 ◇ 心理経過観察相談 ◇ 出張育児相談	◇ 母親学級 ◇ パパママ準備教室 ◇ 母乳・卒乳教室 ◇ おかあさんのお休み時間 ◇ 親子遊び教室（心理 集団活動） ◇ 家庭の事故予防教育	◇ 妊娠届出時面接 ◇ 妊産婦訪問 ◇ こんにちは赤ちゃん訪 問 ◇ 未熟児訪問 ◇ 乳幼児健診未来所者訪 問 ◇ 心身障害児・長期療養 児訪問	◇ こんにちは赤ちゃん対 応会議 ◇ 子育てサロン講話 ◇ 新生児訪問指導員研修 会 ◇ ツインスマイル ◇ 産科病棟連絡会 ◇ 要保護児童等対策地域 協議会
成人 保健	◆ 生活習慣病予防 健診（男性） ◆ 女性の骨太健診 ◆ 健康相談 ◆ 女性のための専 門相談	◆ 健診時集団教育 ◆ エイズ予防教育 ◆ 乳がん予防教育 ◆ 出前講座 ◆ 妊孕力啓発講座	◆ 訪問指導事業 ◆ 在宅難病患者訪問診療 事業 ◆ 難病患者等療養支援 ◆ 肝炎陽性者受診勧奨	◆ 神経難病医療ネットワ ーク連絡会 ◆ 都エイズ啓発拠点事業 ◆ 区内養護部会連絡会 ◆ 区内大学保健センター 連絡会
精神 保健	◇ 精神科医専門相 談 ◇ 家族問題相談	◇ 精神保健福祉講演 会 ◇ ゲートキーパー養 成講座	◇ 家庭訪問指導 ◇ 未治療/医療中断者支 援	◇ こころまつり ◇ 自主グループ支援 ◇ 家族会支援 ◇ ボランティア講座 ◇ 自殺・うつ病の予防 対策委員会 ◇ 心神喪失者等医療観察 法ケア会議
結核・ 感染症	◆ 結核管理健診 ◆ 結核接触者健診 ◆ QFT検査 ◆ 日本語学校健診 ◆ HIV検査/エイ ズ相談 ◆ 肝炎検査/相談	◆ 集団発生時健康教 育 ◆ 感染症予防普及啓 発	◆ 結核患者療養指導 ◆ DOTS（服薬支援） ◆ 感染症発生動向調査	◆ 結核医療機関連携会議

□別表3 家庭訪問（内訳）

（単位：件）

区 分 年 度		訪 問 世 帯 数	計	感 染 症	結 核	精 神 障 害	心 身 障 害	成 人		
								生 活 習 慣 病	難 病	そ の 他
	延数	1,549	1,766	31	231	287	21	22	27	4
23年度	実数	1,117	1,337	6	126	161	17	3	7	7
	延数	1,479	1,812	6	148	373	46	4	29	7
24年度	実数	1,106	1,242	11	97	204	17	1	16	5
	延数	1,550	1,830	13	134	570	38	1	32	9
25年度	実数	1,202	1,349	19	104	191	22	1	8	3
	延数	1,487	1,744	19	156	417	38	1	21	3
26年度	実数	1,198	1,131	28	130	176	10	1	7	5
	延数	1,900	1,626	28	289	374	29	1	23	8
池袋	実数	718	744	28	130	111	4	0	5	3
	延数	1,119	1,064	28	289	197	9	0	20	5
長崎	実数	480	387	0	0	65	6	1	2	2
	延数	781	562	0	0	177	20	1	3	3

下表に続く

（単位：人）

（単位：人）

区 分 年 度		妊 産 婦	乳 児			幼 児	そ の 他	面 接 相 談	電 話 ・ 文 書	関 係 機 関 連 絡
			未 熟 児	新 生 児	一 般 乳 児					
	延数	470	32	414	79	114	34	1,822	7,165	4,862
23年度	実数	437	19	347	95	101	11			
	延数	499	24	379	133	133	31	2,022	7,986	3,857
24年度	実数	387	34	309	69	75	17			
	延数	436	46	324	97	101	29	2,116	7,731	4,326
25年度	実数	429	33	355	82	94	8			
	延数	465	34	361	97	120	12	2,359	6,970	3,500
26年度	実数	288	51	105	227	99	4			
	延数	306	56	110	249	145	6	2,590	9,031	4,829
池袋	実数	163	36	59	148	53	4			
	延数	174	37	61	165	73	6	1,889	6,030	3,338
長崎	実数	125	15	46	79	46	0			
	延数	132	19	49	84	72	0	701	3,001	1,491

（注） 家庭訪問（内訳）のうち、乳児33.8%、妊産婦が 25.4%、精神障害が 15.5%となっている。

[3] 「中学生の性と生活の意識に関するアンケート」～10年前との比較～

豊島区では、平成14年から中学生のAIDS予防教育に取り組んでいる。
平成26年度、「自己肯定感」というキーワードを基に、平成16年度アンケートとの比較を行なった。

[平成16年度の調査]

平成16年度、区内全中学校の3年生（815名）の協力を得て「中学生の生活と性の意識についてのアンケート」を実施。その結果、「性感染症を予防するためには、知識だけでなく自己肯定感を高め、自分の身体や健康を大切にしたいと思う気持ちを持てるようにすることが重要である」という結論を得た。

【調査期間】

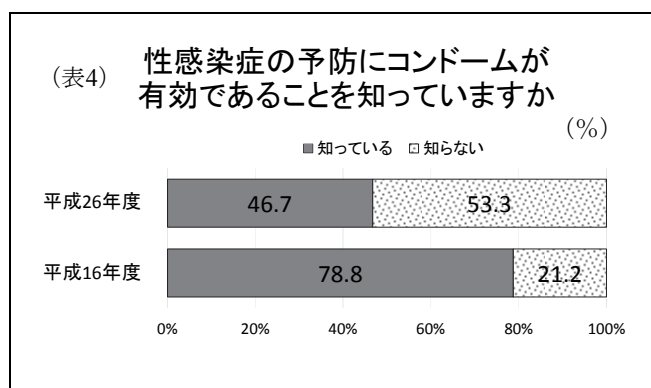
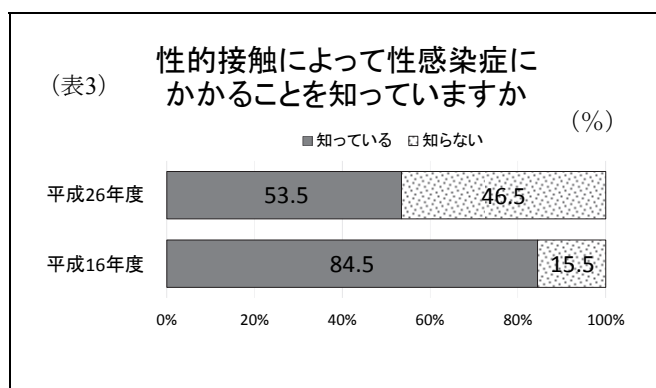
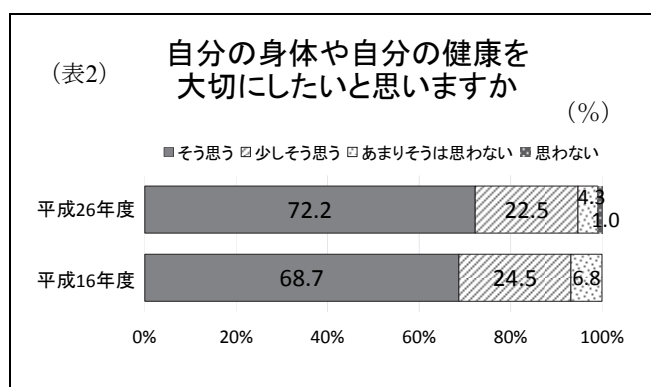
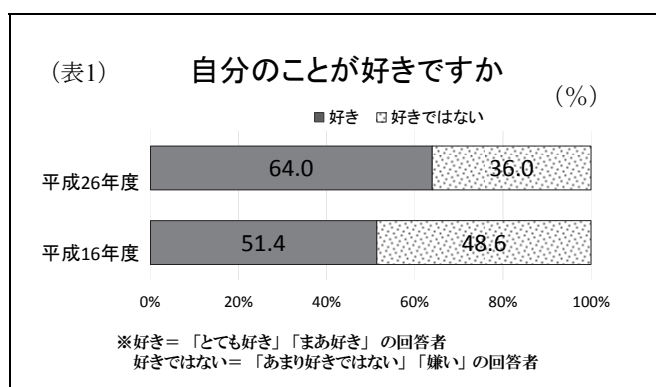
平成26年11月～平成27年1月

【対象】

協力が得られた区内中学校6校（629名）

【結果】

- ・「自分のことが好き」「自分の身体や健康を大切にしたいと思う」と回答した生徒は増加した（表1, 2）
- ・「性的接触によって性感染症にかかることを知っている」「性感染症の予防にコンドームが有効であることを知っている」と回答した生徒は減少した（表3, 4）



【結論】

平成16年度の結果をもとに10年間、保護者・学校・保健所が連携し、自分を大切にしてほしいというメッセージを伝え続けてきた。今回、「自己肯定感」の高い生徒の割合が増加した一方で「性の知識」については低下している現状も明らかとなった。子どもたちが正しい性の知識を得る機会が少なくなっていることが要因のひとつと考えられるため、今後も予防教育を通じて、自分を大切にしてほしいというメッセージを伝え続けるとともに、生徒全員が性に関する正しい知識を身につけ卒業を迎えられるように働きかけていきたい。